

# SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



さいたま市教育委員会では SDGs 教育を推進しています。



さいたま市立

大谷口中学校



本校では、持続可能な生物多様性の取り組みに着目し、身近な問題に目を向けて取り組んでいく。生きていくことに必要な、衣・食・住は SDGs の環境・社会・経済と密接にリンクしていることを意識し、バランスよく考えられる柔軟な思考を鍛える。また、学級単位で目標を達成するためには、その目標を「自分ごと」として捉え、クラスで協働して取り組む必要があることを知り、学校全体で成果を確かめ合うことによって、社会参画意識への向上を目指す。



■所在地：さいたま市南区広ヶ谷戸 21

■電話：048-887-1000

■FAX：048-811-1335

■交通：国際興業バス稲荷越バス停より徒歩 2 分

## 01 今地球に起きていることを知って自分から行動しよう



総合的な学習の時間で、まず知ることから始めよう！をテーマに、地球規模で起きている身近な問題に目を向け探求学習を行っていく。学習の充実を図るため図書資料や、ICT の活用を充実させていく。1 年生では、ゴールの目標 1 つ 1 つについてを学習していく。2 年生では、身近な問題をエシカル消費の視点（地球環境や、人、社会、地域に配慮した考え方）から学習する。3 年生では、さいたま市の SDGs の取り組みを学習し、地域に貢献できる活動を提案したり、自ら行動できる力を身に付けたりできるようにする。

## 02 給食の残食ゼロを目指そう



給食の食べ残しは、食品ロスのほかに CO2 排出量の問題や、フードマイレージ、バーチャルウォーター、ウォーターフットプリント、カーボンフットプリント、地産池消がいい理由など、私たちが生きていくことに様々なものや人がかかわってくることを消費者の視点から考えるエシカル消費を学習したうえで、「食べ残しの削減を目的とした食育・環境教育」を行っていく。

食品ロスは、すでに身近な問題である。大谷口中学校では、見える効果を期待し、自分たちの一口で、飢餓や貧困がなくなることや毎日の生活の中で意識付けしている。4 月から、すでに給食室での毎日の残食量を、放送委員がお昼の放送で全校生徒に発表し、残食ゼロを呼びかけている。生徒自らが、この運動から、どのような工夫で残食が減るのかを考え行動できるようにしたい。

## 03 ゴミの分別の徹底・ゴミを出さない考え方を持とう



学校から出るゴミの分別や、各家庭からリサイクルできる衣料品などを率先して回収し、自分たちの行っている行動が、未来の地球のためにどのような役割を果たすのかを学習し、実践していく。学校からのお知らせや、学習で使用する印刷物の削減や、資源を無駄にしない、ゴミを出さない工夫を教師自らが、ペーパーレス化・ICT の活用に移行していく。